



国際性と国民性の問題は、グローバル化時代の政治や経済だけに限らない。日本人の好きなスポーツでも、ゴルフと大相撲は、それぞれ国際性と国民性を象徴する存在と言える。



山内 昌之

武蔵野大学特任教授

国際性と国民性

初めて制覇した点で国際的に注目された。コロナ禍で沈滞する日本人の気分を明るくした快挙でもある。

なルールでどの国にも公平な国際競技として成熟した。勝敗がわかりやすく選手が異を唱えない点では、ゴルフと並んで、日本の大相撲は世界でも屈指の公平なスポーツである。

かし大相撲は、日本の歴史から伝説・神話へ遡及する「神事」をも継承した伝統文化を担っている。こうした国際性と国民性の調和的發展に関して、私を含む8人の「大相撲の継承発展

を起す道を歩まない。この「脱日本化・コスモポリタン化」への変容を否定することだった。あえて言うなら、大相撲はあくまでも「一国相撲主義」にこだわりの「国際相撲革命」

由来する。剣道は言わずもがなである。鎌倉時代の「吾妻鏡」には「弓馬・相撲の達人」という表現が各所に現れる。弓馬とは武芸一般であり、相撲は武士のたしなみであった。

大相撲、多国籍化が奏功

大相撲は、古典的ルールに忠実な「国技」でありながら、外国出身力士を積極的に受け入れてきた。その総数は、戦後の昭和・平成

を考える有識者会議」は4月、提言書を日本相撲協会に提出した。その結論は、多数の外国出身者がいる現状を、抽象的な「国際化」という言葉でなく具体的に「多国籍化」と定義した上で、このス

れは閉鎖性や排他性というには当たらない。そもそも、江戸時代の礼法書の「貞丈雑記」によれば、鎧を着て武士が組み打ちをした相撲は、平時に当て身で勝負する「やわら」(柔道)とともに武士道に

69連勝を達成した大相撲の横綱・双葉山は、幼少期に右目を失明したが、猛稽古で角界の頂点を極めた。現在、土俵の充実には怪我の防止と健康管理が欠かせない。春場所では首を強打し、先月急死した三段目力士・響龍に心から哀悼の意を表したい。関係者には、稽古環境の整備と一層の安全対策を望む。△2面に続く▽

4月のマスターズ・トーナメントにおける松山英樹選手の優勝は、ゴルフの四大メジャーで一番華やかな試合をアジア出身者として